

電気こんろによる事故の防止について（注意喚起）

電気こんろ（※1）による事故は、入学や就職、転勤など新生活が始まる春から夏にかけて、特に単身者用のワンルームマンション等で多く発生しています。さらに、リコール対象の電気こんろの場合は、製造事業者等による再三のリコールにも関わらず（※2）、未改修品による事故が多発しているため事故防止の注意が必要です。

NITE製品安全センターに通知された製品事故情報（※3）のうち、平成19年度から23年度までの5年間に、電気こんろによる事故が206件発生しています（※4）。このうち、リコール改修（※5）漏れによる事故は2種、119件で約6割を占めています。

電気こんろの事故206件の被害状況は、死亡2件（※6）、軽傷11件、拡大被害（※7）181件、製品破損等12件です。

事故の発生状況を現象別に分析すると、次のような事故が多く発生しています。

- ① リコール製品（電源つまみが飛び出した構造）で身体や荷物等がスイッチに触れて電源が入り、こんろの上や周囲の可燃物が過熱や焼損し、やけどの被害もあった。
- ② リコール製品（電気ノイズによる誤作動）であることを知らず、そのまま使い続け、誤作動で電源が入り、こんろの上や周囲の可燃物が過熱や焼損した。
- ③ 電源を入れたままその場を離れ、こんろの上や周囲の可燃物が過熱や焼損した。
- ④ 誤って電源を入れてしまい、こんろの上や周囲の可燃物が過熱や焼損した。

これらの事故は、誤使用や不注意等の使い方による事故、リコール改修漏れの製品（スイッチつまみの未改修品等）による事故が多く見受けられますが、使用の際の注意やリコール改修により未然に防ぐことができるものも多いことから、注意喚起を行うこととしました。

- （※1） 電気こんろは、ニクロム線等の熱源を利用するもので、組み込み式、据え置き式及び卓上式の3種類がある。今回の電気こんろの事故には、IHこんろの事故は含まない。
- （※2） 平成19年6月20日に電気こんろの事業者が協力して小形キッチンユニット用電気こんろ協議会が設立され、電源スイッチのつまみが飛び出した構造の組み込み式電気こんろのリコール改修を促進している。
- （※3） 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集した非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含む。
- （※4） 平成25年1月31日現在、重複、対象外情報を除いた件数で、事故発生日に基づき集計。
- （※5） リコール改修：リコールの事故原因となった不具合部分を修理・修繕すること。
（参考）リコール回収：リコール製品を市場や消費者から引き上げて回収すること。
- （※6） 死亡2件は、卓上式電気こんろ等の事故で、リコール製品の再発事故ではないと推定される。
- （※7） 製品本体の被害にとどまらず、延焼等周囲の製品や建物に被害が及ぶことを拡大被害としている。

1. 電気こんろの事故について

(1) 年度別事故発生件数及び被害状況について

電気こんろの事故は平成19年度から23年度までの5年間に206件ありました。「年度別事故発生件数及び被害状況」を図1に示します。

事故件数は、平成19年度から平成22年度まで減少傾向にありましたが、平成23年度において増加し、人的被害も発生しています。また、リコール対象製品による未改修・再発事故（以下、リコール製品による事故と表現する）は5年間に2種（※8）、119件（57.8%）で件数自体は減少しているものの、依然として毎年発生し、約半数を占めています。

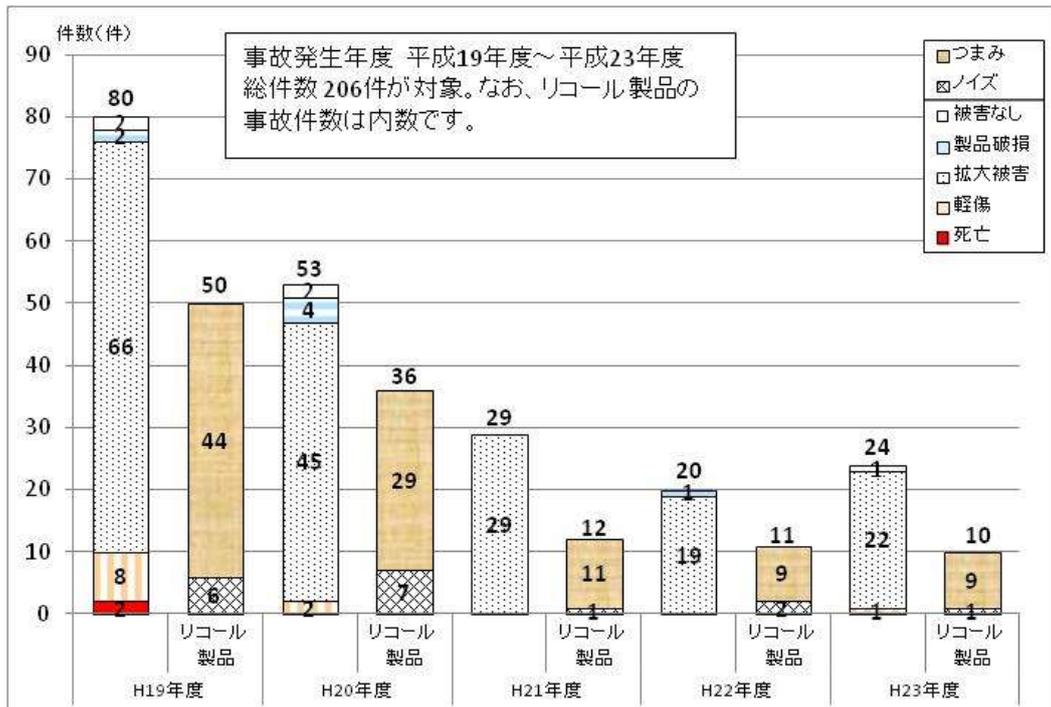


図1 年度別事故発生件数及び被害状況

(※8) 小形キッチンユニット用電気こんろ協議会のリコール製品（スイッチつまみの改修）のほか、電気ノイズ誤作動によるリコール製品である。

(2) 事故の月別発生件数について

電気こんろの事故において、発生月が判明した205件について「月別発生件数」を図2に示します。

月別にみると事故件数は、春（4月）から夏（7月）にかけて多くなっています。



図2 月別発生件数

(3) 事故の年代別被害者数について

電気こんろの事故において人的被害のあった14人（13件）について、「年代別被害者数」を図3に示します。

70歳代と80歳以上の2人の死亡者はニクロム線ヒーターに触れた着衣への着火によるものと火災（原因不明）によるものです。また、リコール製品による事故は、30歳代の2件と年代不明の2件、合計4件発生しています。

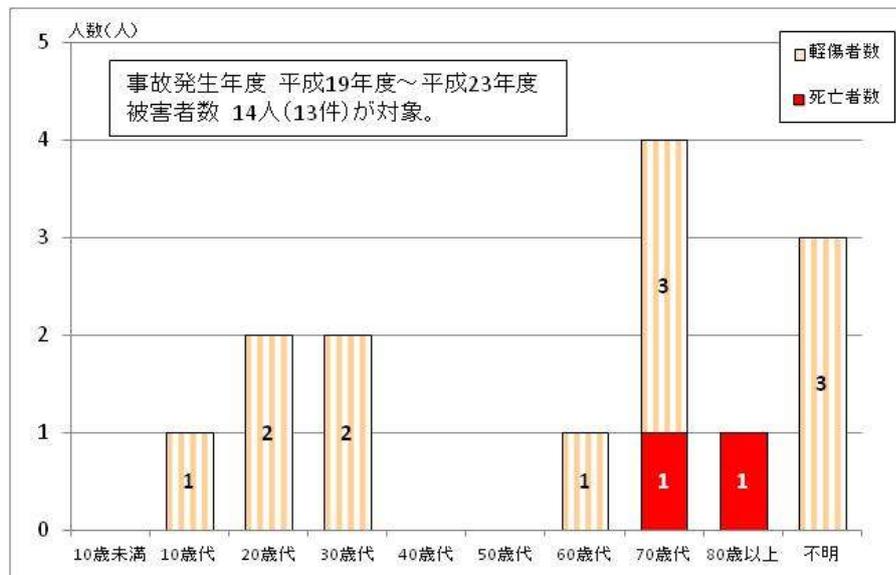


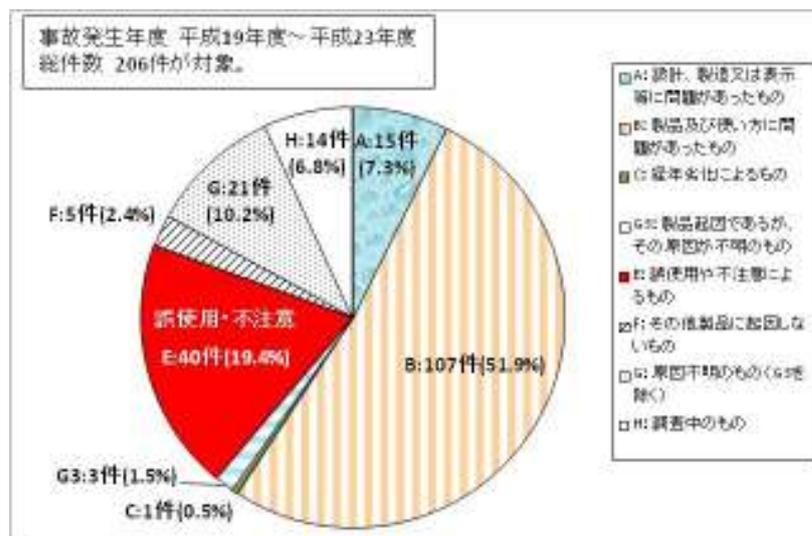
図3 年代別被害者数

(4) 事故の原因と被害について

電気こんろの「事故原因区分別発生件数」を図4に示します。

事故原因区分別では、「製品及び使い方に問題があったもの（事故原因区分B）」107件（51.9%）、「誤使用や不注意によるもの（事故原因区分E）」40件（19.4%）と使い方に関係する事故が多くなっています。

また、「製品に起因するもの（事故原因区分A、B、C及びG3）」は126件（61.2%）ありましたが、このうち製造事業者等によるリコールが実施されているものは2種、接触等で電源の入りやすいスイッチによるもの102件と外部からの電気ノイズで制御ICが誤作動したものの17件、合計119件発生し、総件数206件の約6割を占めています。



電気こんろの「事故原因区分別被害状況」を表1に示します。

人的被害の死亡2件は火災によるもので、軽傷11件は火災によるやけどや出火による煙を吸い込んだ事故等です。さらに、拡大被害181件（87.9%）においても、NITEの火災判定はわずか19件ですが、残りの162件もほとんどが出火を伴っており、重大な火災事故に至る可能性があります。

表1 事故原因区分別被害状況（※9）

事故原因区分		被害状況	人的被害			物的被害		被害なし	合計
			死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損		
製品に起因する事故	A:設計、製造又は表示等に問題があったもの					13	1	1	15 (0) [0]
	B:製品及び使い方に問題があったもの			4 (4)	100 [10]	3			107 (4) [10]
	C:経年劣化によるもの							1	1 (0) [0]
	G3:製品起因であるが、その原因が不明のもの					2	1		3 (0) [0]
	小計		0 (0) [0]	0 (0) [0]	4 (4) [0]	115 (0) [10]	5 (0) [0]	2 (0) [0]	126 (4) [10]
製品に起因しない事故	D:施工、修理、又は輸送等に問題があったもの								0 (0) [0]
	E:誤使用や不注意によるもの	1 (1) [1]		6 (7) [3]	31	1	1		40 (8) [11]
	F:その他製品に起因しないもの				4	1			5 (0) [0]
	小計	1 (1) [1]	0 (0) [0]	6 (7) [3]	35 (0) [7]	2 (0) [0]	1 (0) [0]		45 (8) [11]
G:原因不明のもの (G3を除く)		1 (1) [1]		1 (1)	18 [1]		1		21 (2) [2]
H:調査中のもの					13 [1]		1		14 (0) [1]
合計	事故件数 被害者数 火災件数	2 (2) [2]	0 (0) [0]	11 (12) [3]	181 (0) [19]	7 (0) [0]	5 (0) [0]		206 (14) [24]

（※9）平成25年1月31日現在、重複、対象外情報を除いた件数。

被害状況別で、人的被害と同時に物的被害が発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。また、()の数字は被害者数、[]の数字は事故件数の内数で火災件数。製品本体のみの被害（製品破損）にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。また、壁や柱等の建物又は畳やふすま等の建具の一部以上が焼損することを「火災」としている。

(5) 事故の現象別被害状況

電気こんろの事故の「現象別被害状況」を表2に示します。

①「リコール製品（電源つまみが飛び出した構造）で身体や荷物等がスイッチに触れて電源が入り、こんろの上や周囲の可燃物が過熱や焼損し、やけどの被害もあった。」は102件で事故件数及び人的被害の件数が最も多くなっています。また、⑦「着衣が熱源に触れて着火した。」では火災による死亡事故が1件発生しています。

表2 事故の現象別被害状況（※9）

現象の内容	被害状況	人的被害			物的被害		被害なし	合計
		死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損		
事故原因区分A、G	リコール製品による事故			4	110	4	1	119
	①リコール製品（電源つまみが飛び出した構造）で身体や荷物等がスイッチに触れて電源が入り、こんろの上や周囲の可燃物が過熱や焼損し、やけどの被害もあった。			4 (4)	95 [10]	3		102 (4) [10]
	②リコール製品（電気ノイズによる誤作動）であることを知らずにそのまま使い続け、誤作動で電源が入り、こんろの上や周囲の可燃物が過熱や焼損した。				15	1	1	17 (0) [0]
	誤使用や不注意等による事故	2		7	58	3	3	73
	③電源を入れたままその場を離れ、こんろの上や周囲の可燃物が過熱や焼損した。			1 (2)	13 [3]			14 (2) [3]
	④誤って電源を入れてしまい、こんろの上や周囲の可燃物が過熱や焼損した。			2 (2) [2]	8 [2]	1	1	12 (2) [4]
	⑤揚げ物を調理中にその場を離れ、油が過熱して発火した。			2 (2)	7 [2]			9 (2) [2]
	⑥煮こぼれ等で水分が内部に浸入して絶縁不良になり、漏電ブレーカーが作動した。						2	2 (0) [0]
	⑦着衣が熱源に触れて着火した。	1 (1) [1]						1 (1) [1]
	⑧その他			1 (1) [1]	8			9 (1) [1]
⑨不明	1 (1) [1]		1 (1)	22 [1]	2		26 (2) [2]	
H:調査中のもの					13 [1]		1 (0) [1]	14 (0) [1]
合計	事故件数 被害者数 火災件数	2 (2) [2]	0 (0) [0]	11 (12) [3]	181 (0) [19]	7 (0) [0]	5 (0) [0]	206 (14) [24]

(※9) 平成25年1月31日現在、重複、対象外情報を除いた件数。

被害状況別で、人的被害と同時に物的被害が発生している場合は、人的被害のより重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。また、()の数字は被害者数、[]の数字は事故件数の内数で火災件数。

製品本体のみの被害（製品破損）にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。壁や柱等の建物又は畳やふすま等の建具の一部以上が焼損することを「火災」としている。

（電気こんろのスイッチつまみの改修について）

電源スイッチ（つまみ）に触れて電源が入る事故が多発したことにより、スイッチのつまみが飛び出した構造を有する電気こんろに対しては、製造事業者等が小形キッチンユニット用電気こんろ協議会を設立し、リコールを行い、つまみにガードを設け、不用意にスイッチが入らない構造とする等の改修を行っています。

電気こんろの電源スイッチのつまみが飛び出した構造のものについては、次のように無償でスイッチ操作部を交換しています。電気こんろを確認していただき、該当する場合には、製造事業者等や小形キッチンユニット用電気こんろ協議会に連絡してください。

○小形キッチンユニット用電気こんろ協議会

URL： <http://www.denki-konro.jp/>

TEL： 0120-355-915

表3 電気こんろのつまみの改修前後

改修前	改修後
	
	
	
	



(6) 事故事例の概要について

電気こんろの事故について、現象別に事例を示します。

ア. リコール製品による事故

- ① リコール製品（電源つまみが飛び出した構造）で身体や荷物等がスイッチに触れて電源が入り、こんろの上や周囲の可燃物が過熱や焼損し、やけどの被害もあった。

○平成20年4月23日（千葉県、30歳代・女性、軽傷）

（事故内容）

気付かずに電気こんろのスイッチが入ってしまい、右手首にやけどを負った。

（事故原因）

身体又は荷物が電気こんろのつまみに触れ、スイッチが入ってしまったことに気づかなかったため、加熱されたヒーター一部に触れ、右手首にやけどを負ったものと推定される。

○平成23年4月13日（神奈川県、年代・性別不明、拡大被害）

（事故内容）

電気こんろ及び周辺を焼損する火災が発生した。

（事故原因）

身体等が電気こんろのつまみに触れてスイッチが入り、電気こんろの上に置かれていた樹脂製のかごが発火したものと推定される。

- ② リコール製品（電気ノイズによる誤作動）があることを知らずにそのまま使い続け、誤作動で電源が入り、こんろの上や周囲の可燃物が過熱や焼損した。

○平成22年7月3日（滋賀県、30歳代・女性、拡大被害）

（事故内容）

電気こんろ付近から出火し、上に置いていたタオルと樹脂製のかごが焦げた。

（事故原因）

電気こんろの耐ノイズ性が十分でなかったため、制御基板のコントロールICが誤作動し、電源スイッチが入ったものと推定される。

イ. 誤使用や不注意な使い方による事故

- ③ 電源を入れたままその場を離れ、こんろの上や周囲の可燃物が過熱や焼損した。

○平成23年4月21日（福岡県、20歳代・女性、拡大被害）

（事故内容）

電気こんろのスイッチをつけたまま外出したため、こんろ周辺が焼損した。

（事故原因）

湯を沸かすため電気こんろのヒータースイッチを「強」にしたが、スイッチを入れたことを忘れて外出したため、吸盤で壁面に掛けていたなべつかみ等がヒーター一部に落下し、火災に至ったものと推定される。

- ④ 誤って電源を入れてしまい、こんろの上や周囲の可燃物が過熱や焼損した。

○平成21年7月21日（大阪府、年代・性別不明、拡大被害）

（事故内容）

電気こんろの上に置いていたホットプレートが焼損する火災が発生した。

（事故原因）

使用者が誤って電気こんろのつまみを回してスイッチを入れたために、電気こんろの上に置かれていたホットプレートが過熱され、焼損したものと推定される。

⑤ 揚げ物を調理中にその場を離れ、油が過熱して発火した。

○平成19年7月26日（山梨県、20歳代・男性、軽傷）

（事故内容）

2階建て集合住宅の一室から出火し、台所の壁や天井などを焦がし、両手、両足の指などにやけどを負った。

（事故原因）

電気こんろのスイッチが入った状態で、油が入った鍋を掛けたまま放置したため過熱し、発火、火災に至ったものと推定される。

2. 電気こんろの事故の防止について

電気こんろの事故を防ぐため、次の点に注意してください。

詳しくは、製品の取扱説明書をよく読んで、正しく使用してください。

(1) リコール製品による事故の再発防止について

○ 組み込み式の電気こんろにおいて、電源スイッチのつまみが飛び出した構造のものはリコール改修が行われています。まだ改修をされていない場合は、製造事業者等や小形キッチンユニット用電気こんろ協議会に連絡をして、製品の改修を受けてください。身体や荷物等がつまみに触れてスイッチが入ることがあり、こんろの上や周囲の可燃物が過熱や焼損して危険です。

○ リコールの行われている製品でないか確認してください。もし、該当していれば、ただちに使用を中止して、製造事業者や小形キッチンユニット用電気こんろ協議会等に連絡してください。ただし、電気ノイズ誤作動のリコール製品に関しては、製造事業者が廃業していますので、ただちに使用を中止してください。

(2) 誤使用や不注意な使い方による事故の防止について

○ リコール改修が行われた製品においても、電気こんろの上や周囲に台所用品・新聞・雑誌・カセットこんろ等の可燃物を置かないでください。誤ってスイッチを入れてしまい、こんろの上や周囲の可燃物が過熱、出火し、火災や人的被害に至る恐れがあります。

○ 調理中はその場を離れないでください。離れる時には必ずスイッチを切ってください。

○ 電気こんろのヒーター部に触れないようにしてください。電気こんろは炎は見えませんが、使用中のヒーター部は高温で、触れるとやけどを負うほか、衣服等に着火する恐れがあります。

3. 電気こんろのリコール事例について

電気こんろのリコール事例として、次のような対応事例があります。

(1) 電気こんろの電源スイッチのリコール事例について

組み込み式の電気こんろにおいて、電源スイッチのつまみが飛び出した構造のもので、身体や荷物がスイッチに触れて、電源が入ってしまう事故が発生しています。特に、組み込み式の電気こんろが設置されていることの多い、単身者用ワンルームマンション等で事故が起こりやすくなっています。事故を防ぐために、飛び出したスイッチつまみにカバーを取り付けるリコール改修が行われています。

- ・平成元年 社団法人日本電機工業会がチラシ、ポスター各50万部の配布等を実施。新聞に、「安全にお使い頂くためのお願い」を掲載。業界として「スイッチつまみの周囲にガードを設ける」、「スイッチをくぼませる」等の自主基準を策定。
- ・平成2年 電気用品取締法技術基準改正。その後の製品は不用意な操作ができないような構造に変更。誤操作防止用スイッチパネルへの交換を消費者及び公的機関に推奨、

周知活動行う。

日本電機工業会、キッチン・バス工業会及び該当各社からポスターの掲示、自治体や消防機関とも協力して火災防止キャンペーンを行う。

- ・平成13年 日本電機工業会、キッチン・バス工業会及び各社のHPで注意喚起。集合住宅の管理会社に名簿の提供、改修活動への協力を要請。
- ・平成17年 1月 NITEが事故情報特記ニュースで注意喚起。
(<http://www.nite.go.jp/jiko/news/063/news63.html>)
- ・平成18年 工業会として、全国紙に新聞広告「使い方の注意と無償改修」を掲載。
- ・平成19年 6月 小形キッチンユニット用電気こんろ協議会が設立される。
- ・平成19年 7月 経済産業省がプレスリリース「上面操作一口電気こんろ及び複数口電気こんろの事故の再発防止に向けた根本的対策について」を行う。
(ホームページは既に削除)
- ・平成19年 8月 小形キッチンユニット用電気こんろ協議会が新聞で謹告。
小形キッチンユニット用電気こんろ協議会が一口電気こんろに加え、上面操作一口電気こんろ及び複数口電気こんろも対象に、新聞紙上謹告。
- ・平成20年 11月 NITEがプレスリリースで注意喚起を行う。
(<http://www.nite.go.jp/jiko/press/prs081119.html>)
- ・平成20年 東京都、大阪市、名古屋市で全集合住宅の戸別訪問を実施。
新聞折り込みチラシ配布を全国7区29市で実施。
さらに、配布を全国に拡大して実施。
- ・平成21、22年 集合住宅の戸別訪問、新聞折り込みチラシの配布活動を継続。
- ・平成23年 総務省消防庁（全国消防長会）及び各消防機関へ、全国都道府県市町村別のリコール改修残数リストを提出し協力要請を行う。
- ・平成24年 全国消防長会へリコール改修協力要請を行う。さらに、各地の消防機関に協力要請を行う。

(2) 電気ノイズによる誤作動のリコール製品事故について

電気こんろにおいて、他の電気製品の電源起動ノイズの影響を受けたり、まれに操作部に水分等が浸入するなどして、誤作動でスイッチが入ってしまうという事故が発生しています。

平成20年6月に事業者が無償で点検・修理を開始しましたが、翌月に廃業。その後、破産管財人が引き継ぎ対応しましたが、現在は対応しておりません。

現在は、リコール改修が受けられないため、使用を中止してください。

電気こんろ以外の製品でもリコール製品による事故が発生しています。発生件数の多いリコール製品をこのたび別添資料のリコールちらしに掲載しています。

さらに、リコール情報サイトの紹介とアクセスの仕方についても別添資料にして紹介しています。

○本文中では、事故原因区分を以下の表のように対応させています。

	区分記号	事故原因区分	本文表記
製品に起因する事故	A	専ら設計上、製造上又は表示に問題があったと考えられるもの	設計、製造又は表示等に問題があったもの
	B	製品自体に問題があり、使い方も事故発生に影響したと考えられるもの	製品及び使い方に問題があったもの
	C	製造後長期間経過したり、長期間の使用により性能が劣化したと考えられるもの	経年劣化によるもの
	G3	製品起因であるが、その原因が不明のもの	製品起因であるが、その原因が不明のもの
製品に起因しない事故	D	業者による工事、修理、又は輸送中の取扱い等に問題があったと考えられるもの	施工、修理、又は輸送等に問題があったもの
	E	専ら誤使用や不注意な使い方と考えられるもの	誤使用や不注意によるもの
	F	その他製品に起因しないか、又は使用者の感受性に関係すると考えられるもの	その他製品に起因しないもの
	G	原因不明のもの(G3は除く)	原因不明のもの(G3は除く)
	H	調査中のもの	調査中のもの

1. 電気こんろの改修率と残存台数について

組み込み式の電気こんろの改修率と残存台数を図に示します。

平成元年以降、各製造事業者等により、チラシやポスター、新聞等で注意喚起、啓発活動が行われており、平成2年以降につまみが飛び出たタイプのスイッチ操作部の改修が始まりました。

平成19年(2007年)に小形キッチンユニット用電気こんろ協議会が結成され、従来の前面操作一口電気こんろに加え、上面操作一口電気こんろ及び複数口電気こんろにも対象を広げ、新聞でリコールが行われました。

なお、出荷台数の一番多い前面操作式一口電気こんろにおいては、平成25年(2013年)2月末時点で、改修率は96.0%(名簿把握率96.7%、名簿把握との差は約3700台)まで達していますが、いまだに未改修品での事故が発生しています。さらに、使用者・所有者側の種々の理由で改修を済ませていない電気こんろも存在していますが、早めに必ずリコール改修を受けるようにしてください。

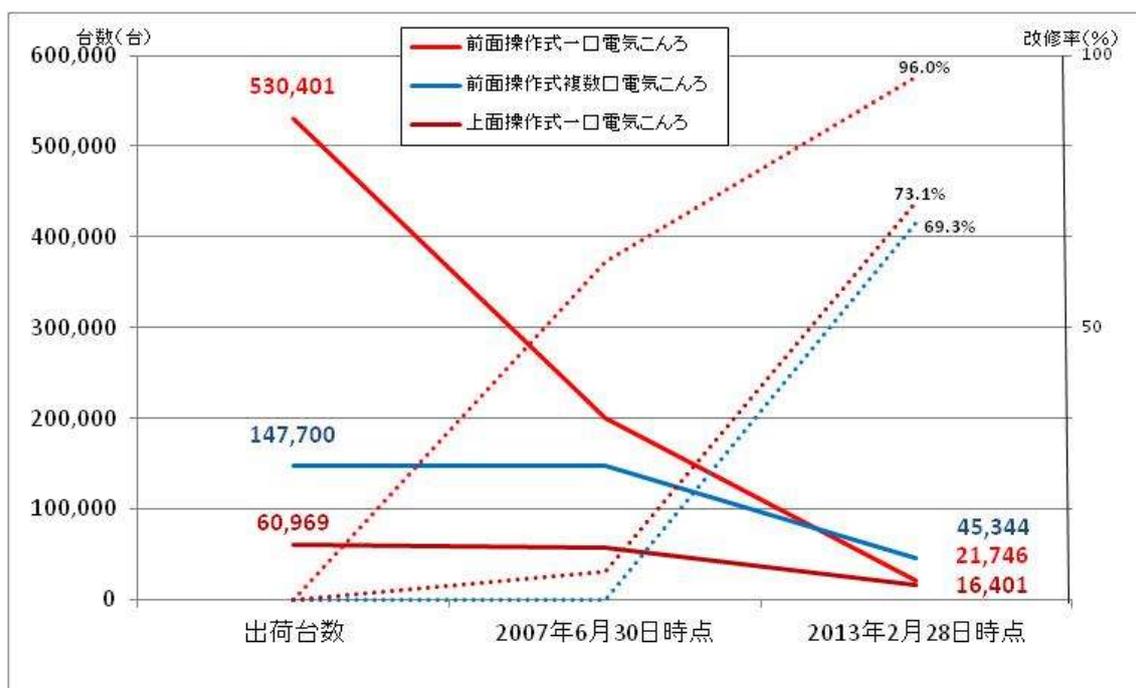


図 改修率と残存台数
(小形キッチンユニット用電気こんろ協議会 調べ)

2. 電気ノイズによる誤作動のリコール製品の事故について

電気こんろの事故206件のうち、リコールされている同一事業者の製品で、外部からの電気ノイズで制御ICが誤作動したものが17件ありますが、この事業者は既に廃業しており、リコール改修が受けられないため、対象製品を使用している場合には、直ちに電源プラグをコンセントから抜き、使用を中止してください。

- ・事業者

株式会社 萬品電機製作所

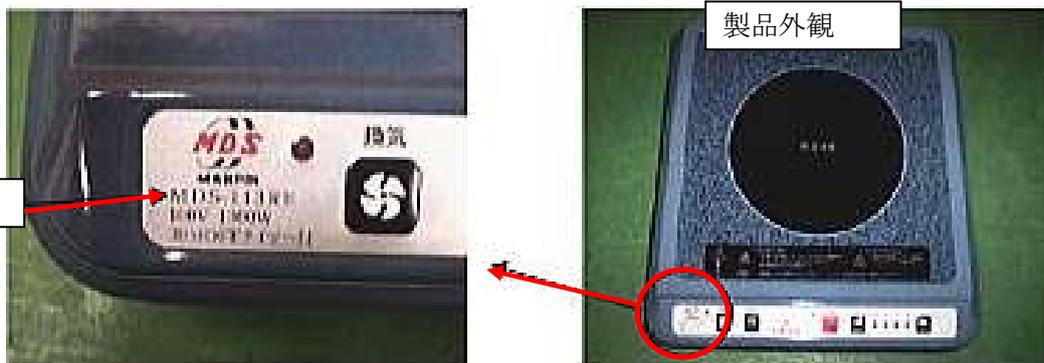
- ・リコール理由

外部からの電氣的ノイズ又は操作部への水分等の侵入によりスイッチが入り、こんろの上に置いていた可燃物が焼損する恐れがあることが判明したため。

- ・リコール対象型番

MDS-113RE、MDS-113REA、MDS-113REB、
MDS-218RE、MDS-218REA、MDS-218REB、
MDS-233RE-2、MDS-233REB-2、MDS-233RE-2W、
MDS-233REB-2W

- ・機種名の確認方法



以上